



FAQ [工事業者様からよくあるご質問 ①]

Q1 とめ太郎充填施工にあたり、事前に準備するものはありますか？

A1 Webサイト上の“ご施工手順(取扱説明書)”に「事前にご用意するもの一式」を掲載しています。ご参照下さい。

Q2 とめ太郎2層充填施工の方法がわかりません。施工手順の資料はありますか？

A2 ご用意しております。とめ太郎製品梱包内に“取扱説明書”が入っています。更に梱包CupラベルのQRコードからは“施工手順”が動画で閲覧可能です。

Q3 とめ太郎はCVTケーブル(トリプレックス)の漏水にも使用出来ますか？

A3 可能です。高粘性のとめ太郎はCVTケーブル隙間に充填する事より、ケーブル被覆の膨張収縮にもしっかり纏わり、追従し、漏水補修(予防)を行えます。

Q4 とめ太郎は水圧に耐えられますか？

A4 とめ太郎の耐水圧はすう太郎(バックアップ材)+とめ太郎の2層施工で、0.05Mpa/30分間の耐水圧性能を有しています。

Q5 とめ太郎の使用可能温度範囲は？

A5 とめ太郎は-20℃~+90℃の使用温度に耐えられます。充填箇所のケーブル表面温度等 上記以外の温度域の問題に直面された場合は別途ご相談下さい。

Q6 とめ太郎とすう太郎(バックアップ材)の2層充填を推奨していますが、モルタルなどで最終的に仕上処理(固定)する3層充填の必要はありますか？

A6 3層充填の必要はありません。とめ太郎はケーブル被覆損傷防止観点でモルタル・接着剤等で固定を行う方式はお薦めしておらず、施工性・コスト・ケーブルの将来施工観点でも充填後容易に撤去が可能な2層充填を推奨しています。

Q7 とめ太郎は1kg/5kg Cupに梱包されていますが、コーキングガンで充填したいのですが、カートリッジ式のとめ太郎の取扱いはありませんか？

A7 Cupのみの取扱いです。とめ太郎は漏水補修を最優先に開発された特殊生成の高粘性パテ剤となり、CVTケーブルに最適な手詰め充填を推奨しています。

Q8 “取扱説明書”に記載している、ビニール手袋の上に軍手を装着し、水に軍手を濡らしながら充填しなくてはいけないのですか？

A8 高粘性につきビニール手袋にとめ太郎が絡みつき非効率の為、当社実証実験の結果で、ビニール手袋+小まめに水に濡らした軍手での充填をお薦めします。

Q9 “取扱説明書”に記載しているように、何故とめ太郎を玉状に丸めて押し込むのですか？

A9 とめ太郎は高粘性につき、小まめに丸めて詰め込む事が最良の充填方法と当社実証実験の結果、判断しております。

Q10 別用途で購入したスポンジを持っています。そのスポンジをバックアップ材として代用しても問題ありませんか？

A10 基本的には問題ございません。バックアップ材仕様で‘漏水を止める用途’に影響はしませんが、すう太郎は吸水スポンジですので、漏水時はお薦めです。

Q11 バックアップ材を使用せず、とめ太郎1層施工では漏水は止まりませんか？

A11 わかりません。漏水時の流量/流速などにも関連する為、断定は出来ず、漏水が止まる場合もあるかもしれませんが、充填厚の計測~充填時の目安としてすう太郎(バックアップ材)を含む2層施工を推奨致します。

Q12 とめ太郎施工にはオプションである「すう太郎(バックアップ材)」を必ずセットで購入する必要がありますか？

A12 いいえ。必ずセットでご購入頂く物ではございませんが、すう太郎は吸水性能を有したスポンジです。充填厚の目安・充填に於ける壁の役割、また流量の多い漏水には水を堰き止める役目も行い、特にお薦めしています。

Q1 とめ太郎を使用すれば全ての漏水に対し、完全止水可能ですか？

A1 完全止水を保証する製品ではありません。**とめ太郎**は漏水補修パテ剤です。漏水の可能性のある需要場所は事前の予防充填で漏水の確率を大幅に下げられます。

Q2 **とめ太郎**の耐水圧は0.05Mpa/30分間ですが、特別な水圧が考えられる施工箇所があります。使用出来ませんか？

A2 管種・サイズ・使用予定接続継手(ベルマウス共用)・需要場所等の情報を配信下さい。検討の上、個別試験実施(有料)可否を判断させていただきます。

Q3 小さな口径のFEP管に充填する場合、**すう太郎**(バックアップ材)がそのまま入らない場合はどうすれば良いですか？

A3 Webサイト上の“ご施工手順(取扱説明書)”「事前にご用意するもの一式」で準備したハサミで、**すう太郎**(バックアップ材)を切断して押し込んで下さい。

Q4 **とめ太郎**でFEP管用のベルマウス(接続継手は含まず)のハンドホール壁面削孔部への固定取付が出来ますか？

A4 固定取付は出来ません。固定取付にはエポキシ系接着剤やモルタル等の完全硬化する製品で対処願います。

Q5 ハンドホール壁面部に固定取付したFEP管用のベルマウス(接続継手は含まず)下方から漏水しています。**とめ太郎**で止水可能ですか？

A5 特殊な事例は除き、止水可能です。ハンドホール内部からベルマウス円周部の固定している材料をまずは取り除き、**とめ太郎**を円周上に充填。エポキシ系接着剤(オプション品)で表面仕上処理と共に再度固定を行って下さい。

Q6 設定されている最低充填厚で水は完全に止まりますか？

A6 充填箇所の環境、作業者様の技能レベル等で止水性能は変動致しますし、勿論規定以上の水圧には耐えられません。個々で止水確率を上げる為、FEP内空間とベルマウス挿入先端の重ね合わせ部隙間を埋めるべくFEPφ100~125/150mm厚、φ150・200/200mm厚 程度 充填をなされる方もお見受けします。

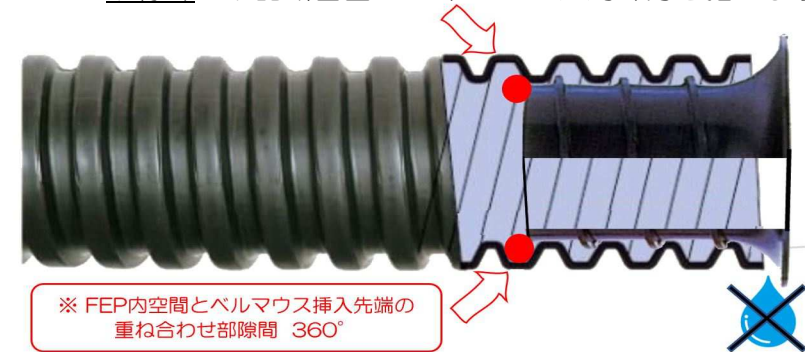
Q7 **とめ太郎**充填施工にて特に注意する点がありますか？

A7 FEP管 奥側→下部→左右→上部の順に充填。FEP内面の凹凸部・FEP内空間とベルマウス挿入先端の重ね合わせ部隙間は特に丹念に充填下さい。

Q8 **とめ太郎**をベルマウス内に充填し漏水は止まったが、今度はベルマウス下方から漏水が始まってしまった。何か対処方法は有りませんか？

A8 FEP管**とめ太郎**充填厚を再確認。FEP内空間とベルマウス挿入先端の重ね合わせ部隙間を丹念に再充填後、ベルマウス下方の**とめ太郎**充填がお薦めです。

(注)A6~8 下線部は下記断面図の●部360°円周部分を指します。



Q9 ハンドホール内が水没して、ベルマウス(接続継手)を伝って、他のハンドボール設置箇所に漏水を及ぼす可能性は有りませんか？

A9 勿論可能性はあります。同事例を想定し、当社はハンドホール内部からベルマウス→FEP管側への水圧試験を実施しており、Φ50で0.05Mpa/120分間の耐水圧性能を有しております。

Q10 **とめ太郎**を直射日光が当たる「屋外設置」したいのですが？

A10 **とめ太郎**は暗所での充填を想定している製品の為、紫外線劣化防止剤は含有されておられません。但し、已む無く設置をなされる場合は日射表面に塗料を塗布するなど、必ず紫外線劣化を鈍化させる方策を講じて下さい。弊社でも推奨塗料の販売しています。お問い合わせ下さい。
〔但し本対策によって、劣化防止を保証するものではありません〕



FAQ [工事業者様からよくあるご質問 ③]

Q1 とめ太郎のを実際充填している動画が観てみたい。

A1 You Tubeに充填動画UPしております。YouTubeで<とめ太郎_EPJ>と検索下さい。『とめ太郎® 充填動画 Ver2』が最新の動画となります。

Q2 プレミックスモルタル ハツレーTMの充填及び撤去方法も動画で観てみたい。

A2 同じくYou Tubeに充填/撤去方法の動画UPしております。<ハツレー_EPJ>と検索下さい。タイトル『ハツレーTM 充填～撤去動画』です。

Q3 充填箇所が多数あり、事前にとめ太郎の使用量を知りたい。

A3 同ホームページ/とめ太郎 掲載ページ「とめ太郎®使用量計算ツール」より使用量目安を算出下さい。同計算ツールは空間体積から算出したもので、あくまでも目安となります。ご了承下さい。

Q4 とめ太郎を購入しましたが、車の中に保管したいが、問題無いか？

A4 基本的に不乾性の為、問題御座いませんが、カップは必ず封をし、日陰且つ風通しの良い状態で保管下さい。夏場など極端な温度上昇が想定される車内保管は避けて下さい。

Q5 とめ太郎を管路立ち上げ部に充填は可能ですか？

A5 基本的に可能ですが、管路口防水材料などの併用をお勧め致します。管種によってはとめ太郎の自重で下方(管路奥側)に落ち込む事も想定される為、脱落防止策を講じて設置下さい。詳細は別途お問い合わせ下さい。

Q6 とめ太郎の「耐久性」について教えて下さい。

A6 とめ太郎は性状的観点から“半永久に硬化しないパテ剤”として2020年に発売し、現況「耐久性」を証明する試験報告書の発行は出来かねますが、5年・10年周期での社内試験実施を予定しています。

Q7 とめ太郎をスリーブ(貫通部)の隙間充填に使用したいが問題無いか？

A7 問題御座いません。各現場毎の仕様に基づき、ご採用頂いています。

Q8 とめ太郎とハツレーTMをスリーブ(貫通部)の隙間充填した場合の充填厚は？

A8 とめ太郎50～100mm厚が仕上材50mmが一般的な充填厚と考えます。現場施工管理者もしくは施工図面でご確認下さい。

Q9 とめ太郎をスリーブ(貫通部)の隙間充填に使用したいがバックアップ材 又は最前部の仕上は必ず必要か？

A9 必要です。バックアップ材→とめ太郎→仕上材(硬化性)にてご案内となりますが、現場施工管理者もしくは施工図面でご確認下さい。

Q10 施工管理者からとめ太郎とすう太郎(バックアップ材)に加え、ベルマウス口は仕上処理(固定)施す様に指示を受けたのですか、問題有りませんか？

A10 施主様・設計会社様・施工管理者様 各所からのご指示優先と考えます。弊社はケーブルシースに対し、“固める”ことは不適と考えます。

Q11 以前使用した他社不乾性パテ剤は3層充填/最終層を“固める”充填を行ったが、今回も同様に3層充填/最終層を“固めたい”が問題無いか？

A11 已む無く3層目(最終層/仕上)を固める場合は、後のケーブル入替が容易な、とめ太郎オプション品プレミックスモルタル「ハツレーTM」を推奨します。

Q12 施工管理者から3層目の仕上処理に「不燃材」充填を言い渡されたのですが？

A12 弊社とめ太郎 オプション品 プレミックスモルタル「ハツレーTM」がお勧めです。同製品はモルタル=不燃材であり、750℃の耐熱性能を有しています(社内試験)。仕様書提出の上、ご採用は施工管理者様の指導の則って下さい。